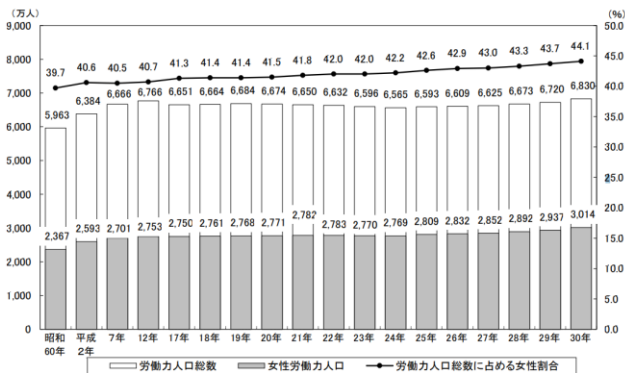


東京都における産休に関するアンケートレポート

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が平成 27 年制定され、日本女性の働く環境は大きく変化し、総務省「労働力調査」による、2019 年の女性の労働力人口は 3,014 万人と前年に比べ 77 万人増加（前年比 2.6%増）し、6 年連続の増加となったと報告されています。（表 1）また、女性の年齢階級別労働力率の推移を見ましても M 字を描いていた就業状況も M 字の底が上昇してきています。結婚・出産・育児で仕事から離れる女性が少なくなっていることがグラフからも読み取れます。（表 2）

【表 1】

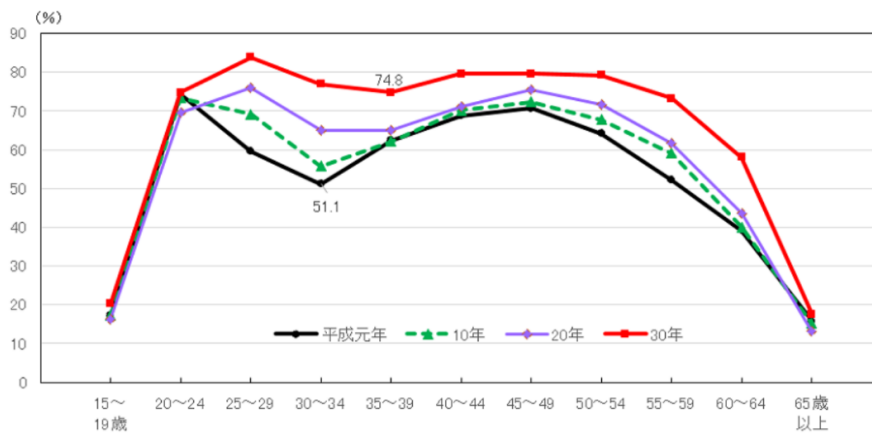


資料出所：総務省「労働力調査」
「労働力人口の男女別構成比」は、厚生労働省雇用環境・均等局作成。

総務省統計局 労働力調査より

【表 2】

図8 女性の年齢階級別労働力率の推移（平成元年～30年）



歯科衛生士の離職理由に「出産、育児」がさまざまなアンケートから上位を占めています。そこで、産休についてのアンケートを実施致しました。

【アンケート実施期間】

2020 10/1～10/15

【アンケート実施方法】

歯科衛生士の産休に関するアンケート

歯科衛生士の産休で多くを占めるのが、結婚・出産を機に退職するという理由です。女性の働き方は大きく変わり、平成28年の時点で全ての年代で約70%の女性が仕事に就いています。かかりつけ歯科医制度が強化され、歯科衛生士が働き続けることは、都民の皆さんにとっても重要なことです。なぜ、歯科衛生士は、この時期に退職する方が多いのかを考えたいと思います。

*必須

あなたの年齢をお知らせください*

選択

勤務地はどちらですか*

選択

産休・育休バンク機関について
産休・育休を取られている方の代わりに仕事に就く歯科衛生士の登録機関があればあなたは登録しますか

産休・育休の方の代替えバンク機関があれば登録しますが*

バンクに登録する
 バンクに登録しない

Google フォームを活用し、歯科衛生士会会員及び、歯科衛生士養成学校に周知を依頼し、URL・QR コード配信にて回答を得た

質問内容

- 1.年齢
- 2.勤務地
- 3.勤務形態
- 4.産休・育休バンクの機関の登録について
- 5.産休・育休バンクについて自由記載

就業中の方のみの回答

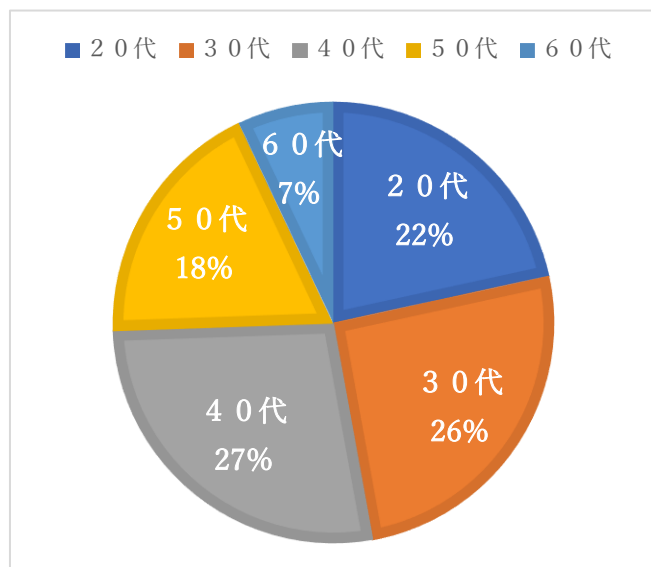
- 1.産休・育休制度の有無
- 2.出産を機に仕事を辞めるかの意思
- 3.仕事を辞めたいと考える理由
- 4.復帰について

【アンケート数】

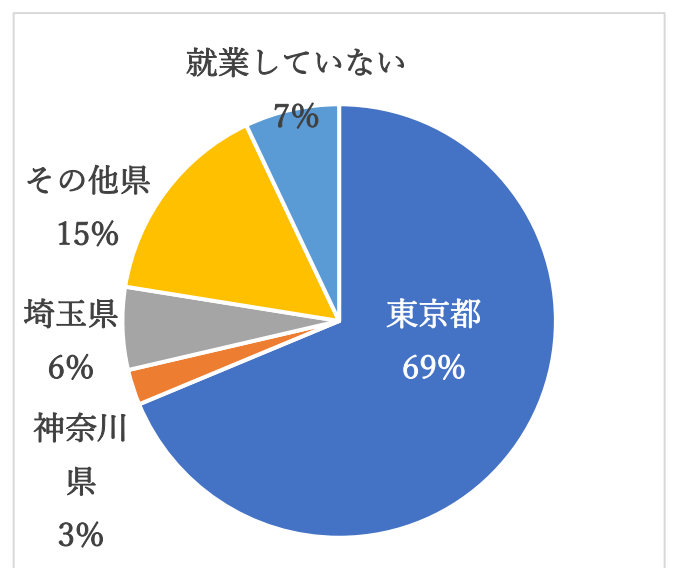
227名（東京都歯科衛生士会員・会員外、他府県歯科衛生士会員・会員外 含む）

205名 就業中の方のみの回答数

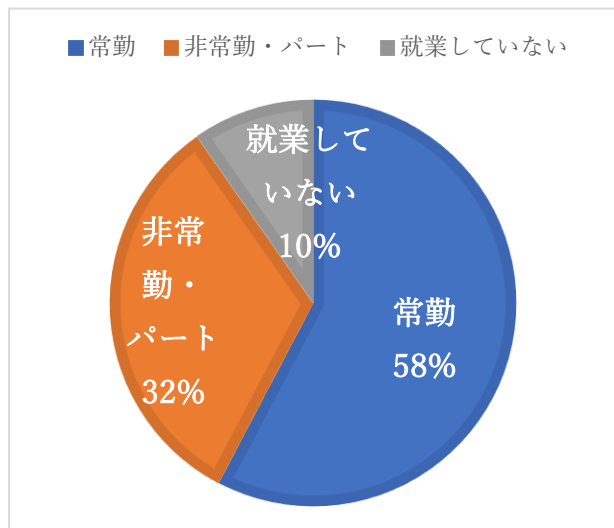
【年齢区分】 n=227



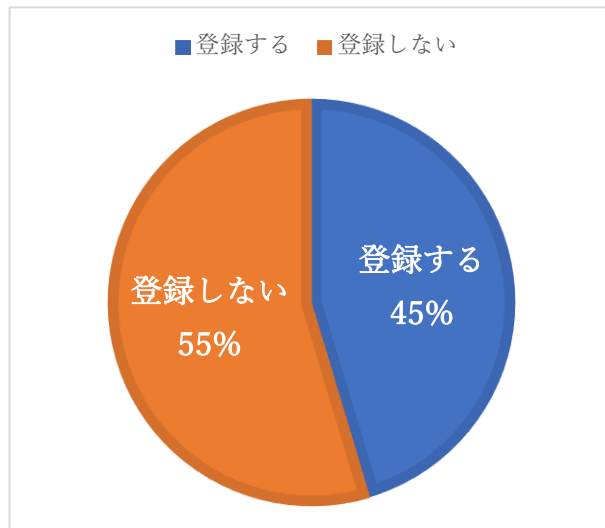
【勤務地】 n=227



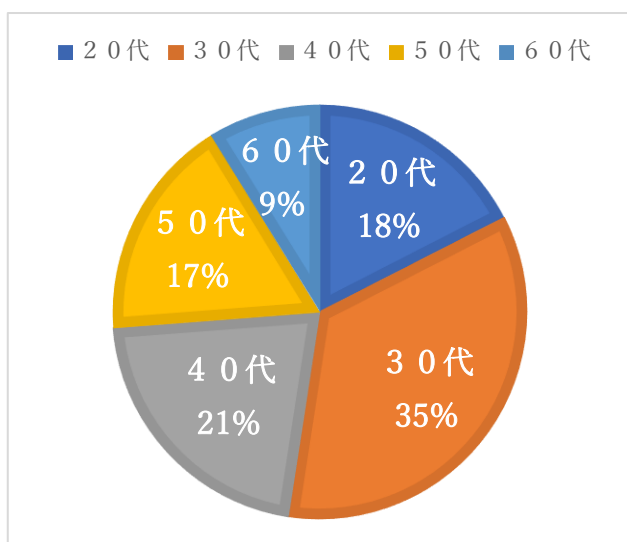
【雇用形態】 n=227



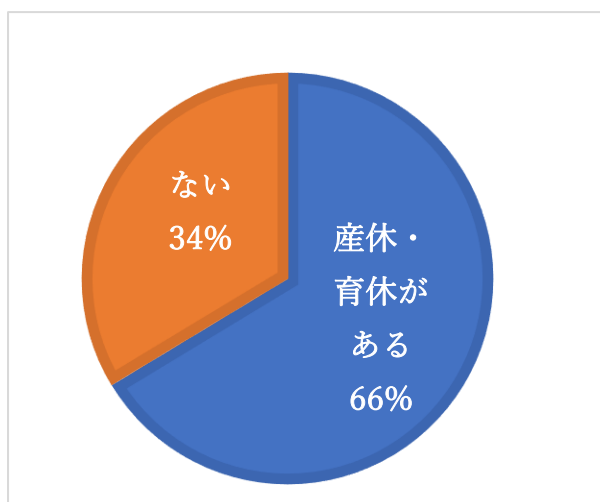
【産休・育休の方の代替えバンク機関があれば登録するか】 n=227



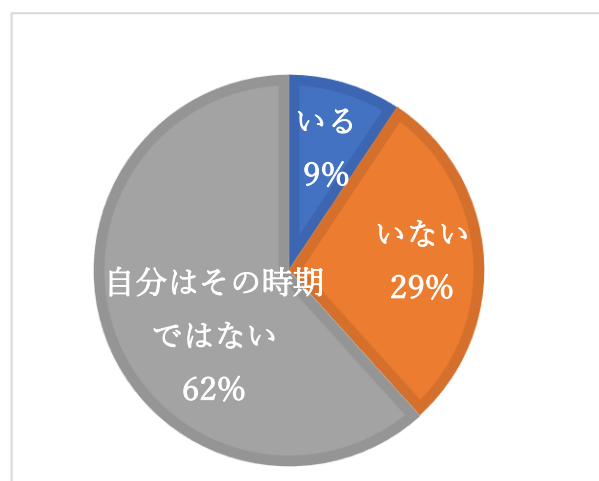
【代替えバンク登録と答えた者の年齢区分】 n=103



【産休制度について】 n=205



【出産を機に離職を考えているか】 n=205



【離職を考える理由は】 n=205(複数回答) 【離職後には歯科衛生士に復帰したいか】 n=227

